

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年10月31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	469030043号
法人名	有限会社 三井・メディックス
事業所名	グループホーム新川
所在地	鹿屋市新川町5385-1 (電話) 0994-40-5750
自己評価作成日	平成28年8月30日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の殆どは、身体機能、認知機能が重度となっている方もいます。何かにつかまれば、立てる・少し支えると立つことが出来る・座ることが出来るなど、部分的にできることを確認しながら、トイレで排泄することを維持しています。オムツ使用中も、殆どもれていた方が、トイレに行く来会を増やす中で、「トイレに行きたい。」という想いが強くなり、トイレで排泄することが当たり前となりました。他にも、今まで排泄失敗の不安から、オムツを外すことが出来なかった方も、布のパンツに代えることが出来るようになり、「これは、気持ちがいいな。」と満足されることもあります。また、ご家族も「そんなことが出来るようになったの?」と見直されることもありました。職員間では、「どうしたら安全に、その方がやりたいことを実現できるか?」と常に検討し、工夫次第で職員が望む傾向が見られたりすることも多く、職員も自信ややりがいを感じることも多くあります。また、口腔ケアも、安楽歯科の協力を頂き、ケアのチェック、アドバイス、治療などの調整もスムーズに応じていただいています。毎月、ミーティングがあり全職員が必ず参加しています。その中で、意見を自由に交わしたりと、職員間の雰囲気も明るく、活気があると思います。利用者様もご家族も、そして職員も毎日笑顔で過ごせるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【理念について】
 ・「～住み慣れた地域の中で笑顔で満足あきらめない～」というホームの理念にあるように、加齢や認知症の進行に伴いこれまでできていたことができなくなり、焦燥感や不安な気持ちを抱え意志表示が難しくなっている利用者の思いに寄り添い、本人本位にケアを実践しているホームである。代表者は、年々重度化してきている利用者の介護に従事する職員の負担も検討しながら、福祉用具を有効に活用しケアに役立てている。職員が明るく人間関係も良好で、離職も少ない。働きやすい職場環境は公休・希望休の取り方や職員の昼食代を免除している点でも理解できる。管理者は、個人面談を実施し、職員向けアンケートにて意見や提案を検討するなどしてサービスの質の向上に努めている。ホームの理念は職員に浸透している様子が垣間見られるが、管理者や職員は地域との日常的な相互交流がまだまだ足りないと感じており、職員全員でミーティングで話し合い、今後の方策について検討していく予定である。理念は、重要事項説明書にも掲載し契約時に家族にも説明している。

【災害対策について】
 ・防災への意識の高いホームである。避難訓練だけでなく断水をシュミレーションし、災害時のように実際にトイレ介助するなど利用者や職員の意識を高め訓練している。玄関には、備蓄(「防災チェックリスト」)、水を準備し実際に今年の台風を活用されている。また、常日頃から浴槽には必ず水を張り予期せぬ災害に備えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域の中で、笑顔で満足、諦めない」を理念とし、利用者様が出来ないことも多くあるが、できること、出来るようなことを注目し、できるようにサポートするか、スタッフ間で意見や情報を交わしながらケアを行っている。その中で、出来ることが増えてくると、ご家族も喜んでいただき、ご本人の笑顔も増えていると感じることもあります。また、スタッフも出来るようになったことから、一緒に喜び、「これでよかった。」という自信にも繋がっていると感じます。	理念は、地域を意識し、できなくなったことが再びできるようになるなどあきらめない取り組みを目指している。職員会議で話し合い理念に沿ったケアが提供できるよう職員間で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、町内会より七夕飾りを届けていただいたり、中学校の体験学習を受け入れ、子ども達と交流を図る機会を維持しています。防火訓練（自主訓練）では、地元消防団の協力を貰い、訓練も参加していただいています。また、運営推進会議は、町内会長、民生委員、市議会議員、消防団など地域の方の参加も維持していただき、利用者様へ声をかけていただくことも多くあります。	町内会に加入し、広報誌は町内会長が直接ホームに持って来て下さる。毎年、七夕かざりを通じて老人クラブや子供会と交流している。管理者は、ホームが地域の一員として日常的に交流できるよう検討している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	体験学習では、認知症について一緒に学んだり、実際関わることで、配慮することなど伝える機会があります。施設入居の問い合わせでは、グループホームに特徴、検討している方に合わせた、サービス利用など提案させていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、会議を開催しています。利用者の活動、受診状況、インシデントなどのリスクについて定期で報告しています。2ヶ月間の中には、防火訓練実施報告、事業所の取り組みなどの報告も行うことがあります。メンバーから、報告の中より、質問や、意見、アドバイスも毎回多く発言いただいている。	会議の記録は、毎回家族全員に送付し情報の共有化に努めている。家族には交代で参加してもらっているが、固定化しない工夫が必要である。防犯カメラの設置を相談したり、警察官から振り込み詐欺被害者の話を聞いて参考にしたり、意義ある会議になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は必ず、市職員の参加があり、その中で感染予防、熱中症対策など、季節に関する注意喚起事項を提供してもらっている。また、メールにて、災害発生など必要な情報、対策情報を頂くことも多くある。事業所内で、判断が難しいことなど、相談する機会もあり、親身になっていただいている。	市担当者とは、協力関係がありボランティアの情報をもらうなどしている。秋に徘徊模擬訓練を計画しており参加する予定がある。今後、キャラバンメイト連絡会に参加し、認知症の理解が得られ社会貢献ができるよう検討している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	制度上禁止されている行為以外でも、毎月ミーティングで、サービス向上委員会担当者を中心とし、普段提供しているケア中の、声かけ、態度の振り返ることや、見直しの機会があります。利用者様の行為すべてが危険かどうか、リスクも含まれるが、危険性が少ない中で、出来ることを積極的にサポートできるかなど、意見交換する機会もあります。	リスクマネジメント委員会では毎月会議でヒヤリハット事例を検討し、事故防止対策を図るとともに家族との面談時に報告するよう努めている。玄関は施錠せず自由に出入りができるよう配慮されている。車いす移動の方も増えてきているが、ソファに座りくつろぐなど本人本位に支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の学習会で、虐待についてテーマを設定し、グループワークを通して、意見交換、ケアの振り返りを行っています。また、外部研修の案内もありますが、全員が参加することは難しいので、参加できなかった職員へ、資料をコピーして配布するなど、情報を共有するように心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度や福祉サービス利用支援事業を検討する利用者様が少ないことから、制度が身近に感じられないことも多い。職員の中には、介護福祉士の試験勉強で、制度について学習質得る人もいますが、ホーム内や、外部研修に参加することはありませんでした。仕組みを学ぶ機会を作りたいと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に、契約書、重要事項説明書の説明をさせていただいている。分かりにくいこと、疑問に思うことはないか、確認を行っています。介護保険制度改正に伴い、利用料の変更がある時は、事前に説明をさせていただき、理解、納得した上でサービスを利用いただけるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成27年は、家族アンケートを実施した。今年度は、7月に事例発表を通し、看取りに関する内容で、ご家族の意見を伺う機会を設けた。年1回は、サービス内容など、アンケートを実施する機会を設けたいと考えています。	昨年、家族向けのアンケート調査を実施し集計してミーティングで結果を話し合いサービスの改善に繋げている。看取りについてのアンケート内容も確認できた。外部評価のアンケートでは、特に更衣支援に配慮していることや衛生面に力を入れていることが伺えた。管理者と利用者、家族はいつでも意見交換ができる関係性を築いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ホーム内ミーティングの中で、職員の意見を交わす機会を維持している。積極的にそれぞれの考えを、伝え易い雰囲気作りが出来ていると思います。	職場環境が良好で、定着率も高い。公休や希望休は、年間で決めている。また、年末年始の勤務も平等性を図る方法を採用し職員も納得している。必要に応じて個人面談を実施、職員の意見、提案はミーティングなどで話し合わせケアに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務について、休み希望を事前に予定を入れる、カレンダーを作り、休みが重ならないようにしている。家庭との両立ができるように努めています。資格手当でも付いています。また、介護福祉士の試験を受けることで、質の向上にも繋がっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に、学習会を開催しており、同法人のグループホームとど合同でグループワークを通し、情報や意見交換の機会になっています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ホーム内の学習会以外に、外部研修に参加する機会を設けています。その中で、他の介護施設職員と意見を交わすなかで、自施設のサービス内容と比較することで、気づく機会になっています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの際、現在生活している場所へ行き、本人の様子や、入居に対し、心配なことなどが無いかなどを確認をしています。上手く伝えることが無い方もいますが、御家族等から、伺うようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際に、御家族の介護量、困っていることなどいかがうようにしています。また、要望など何でも確認しながら、ご家族が望むことに答えられるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談では、現在の介護状況、在宅サービスを利用しているかなど確認しています。入居中の方、在宅でサービスを提供中の方もいますが、もう一度、利用中のサービスを維持できないか、他の方法なども提案させていただいたこともあります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が、出来そうな事は、一緒にしていただき、慣れた作業などは、頼んだりすることもあります。利用者様の中には、「仕事をしているけど、給金をまだ貰っていない。」等、利用者様通しの会話に出てくることもありました。役割意識が維持できるように、出来ることは勧めて行くようにしています。そのことで、自信を持つこともあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居のとき、ご家族にも一緒にサポートすることを伝えています。利用者様ご家族も、できることは協力頂き、自宅へ帰ったり、墓参り、美容室、買い物、外食などの外出支援や、ホームで一緒に、過ごす方もいらっしゃいます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と一緒に、出掛ける方もいますが、スタッフと一緒に、ご自宅周辺の、良く行っていた店に買い物へ行く、周辺をドライブすることもあります。	いとこや義理の兄弟の面会が日常的にある方や、母の日の返事やひなまつりカードを娘さんに渡すなどしホームに招待したり、手紙の代読や自宅訪問して地域に帰り買い物を楽しんでいる。ホームは、昨年「個人アルバム」をクリスマスプレゼントして利用者や家族に喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム日課に、参加していただいたり、ソファに座りながら、タオル畳を一緒に手伝いながら、雑談する姿も多い。一人が、個別運動や、脳活プリントなどに取り組むと、刺激を受けるのか、「私もするが。」と、スタッフに伝えてくることもあります。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に経過フォローや、相談支援などのケースは無かったが、現在も運営推進会議のメンバーとして、反対にサポートしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実際に、要望など伝えることが難しいが、何時もと違う活動を通じて、その方の反応から、時には外出したいのではないかと、推測し支援内容に盛り込むこともあります。また、ご家族に確認しながら、希望になるべく応じられるように努めています。	日々の生活の中で、本人や家族の思いに触れどう暮らしたいか何をしたいか、食べたい物は何かと本人の希望などを聞き取るようにしている。家族にもアンケート調査を実施し思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活習慣や、最近の活動状態など、ご家族から何う事が多くあります。また、在宅生活をされていた方について、介護サービス利用の状況など確認させていただきながら、暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームでの日課や、活動時間は大まかに設定している。中には、その時間帯に参加できない場合もあり、その方の状態に応じながら、時間変更をして過ごしてもらっています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の申し送りの中で、ご本人の状態を見極めながら、介助の方法を検討することが多くあります。また、担当者会に御家族、職員と意見交換をする中で、計画書を作成しています。	標準的なアセスメント様式を用い担当職員から情報を収集しミーティング時に課題分析して本人や家族の意向を踏まえた介護計画を作成している。また、6ヶ月ごとにモニタリングし見直しを検討している。今年11月、市主催の研修会が計画されており、ケアプラン勉強会に参加する予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、その時の様子など記載することが多いが、アセスメントも記載することで、以前の様子と、現在のことと比較する場合があります。記録を通し、職員間で情報を共有することも出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個人ごとに、かかりつけ医のサポートは、当該施設看護師が主に実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーには、消防団、民生員、町内会長、地域住民など参加してもらい、運営状況、利用者の活動など意見交換することが定期的にあります。また、七夕飾りを町内の子ども会の参加や、行事等で、ボランティアの参加も維持しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかっていた医療機関をそのまま継続していただき、定期受診、臨時受診のサポートをさせていただいています。	本人希望のかかりつけ医になっているが、訪問診療があり、外来受診には看護師が必ず付き添うよう支援している。精神科受診者もおられ他科受診にも柔軟に取り組んでいる。また、体調不良時は、往診にて適切な医療を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、日常の健康管理、必要な医療機関との連携を図っています。また、看護師が不在となる時間帯などに、利用者の体調変化がある場合は、看護師へ連絡、相談するようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	長期入院により、認知症の進行、身体機能の低下などを避けるために、医療機関の相談員と連携し、早めに退院ができるように調整をします。また、在宅医療の協力を貰いながら、当該施設内で必要とする医療管理を継続することもありました。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまで、御家族の希望や、医療機関と調整を行いながら、ホームで看取りを実施してきました。重度化に伴い、医療機関との連携を図っていますが、ホーム内で出来ないことなど、課題も多くあります。その時の状態に応じ、ご家族やかかりつけ医との連携など今後も調整を行っていきます。	今年、3月、5月と看取りを経験しており、「看取りのアンケート」を家族、職員に向けて実施している。地域には看取りや在宅医療に熱心な医師もおられる。「重度化した場合における対応に係る指針」「看取り介護についての同意書」があり段階に応じて納得のいく最期が迎えられよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防で実施される、普通救命講習へ参加したり、ホーム内の学習会で緊急時の対応、手順等を学ぶ機会も維持しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、防火訓練を実施し、火災発生時の対応確認を実施しています。台風などの災害発生に備え、数日分の備蓄を備えており、今年はその備蓄しているものを使用し、不足しているもの、使用方法など確認する機会を設けました。</p>	<p>「防災管理チェック表」が活用され、日勤リーダー、夜勤者の二重チェックを徹底している。消防車が進入しやすいよう道路を拡張してもらったり、放火対策や毎年、被災をシュミレーション化した訓練をしている。「防災リスト」があり玄関に備蓄され、共有スペースに水タンクが完備されている。また、浴槽には水が張ってある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段の態度、声かけなどふさわしくないケースがないか、定期ミーティングや、学習会を通して振り返る機会を作っています。慣れから、無意識な対応が無いように、配慮していきたいと思います。	職員は、年2回自己評価をおこない振り返るとともに今年9月に学習会の中で排泄の自立支援をテーマにして本人に合った声かけを統一するなど検討している。職員は、利用者が好み落ち着ける言葉かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム日課活動以外で、個人ごとに実施している活動もあります。一人ひとりの時間、活動内容に合わせてながら過ごしていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など、その方に合わせて用意したり、介助をしています。職員の都合を優先せず、利用者のペースに合わせて過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時に、髭剃りを実施したり、その日に着る服を一緒に選んだりしています。介護が増えると、ズボンが殆どになってしましますが、ワンピースなどご本人が、今まで好まれていた着こなしを維持できるようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食材を把握し、なるべくその方にあわせながら食事を用意しています。時には、一緒に食事を作り、食材を切ったりすることもありました。	買い物は週2回職員が行くが利用者もたまに一緒にスーパーに出かけている。調理担当者があり、誕生日はリクエストにも応えている。偏食から食が細くなり、認知症が進行し食事形態を工夫している方があり、医療と連携しながら口腔摂取ができるようケアしている。重度化もあり、少人数で外食を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談し、食材のバランスを確認していただくこともあります。食事に集中してないのか、食欲がないのか確認をしながら、注意が向かない場合、食べることに興味をもてるように、好みのものを中心に用意し、関心が持てるようになったケースもあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、週1回口腔内のチェック表を活用し、観察しています。毎月、歯科衛生士より、口腔チェックと、アドバイスを受けながら過ごしていただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入院中、オムツ排泄となった方で、自宅で過ごしていた時、トイレで排泄していたら、その状況に近づけるように、サポートしています。日中、トイレで排泄することが当たり前となり、呼び出しボタンを使い、スタッフに知らせることで、布パンツだけで、過ごせるようになった方もいます。起立や、座位が出来る方は、トイレで排泄しオムツなど減らす取り組みは維持しています。	昼間は、布下着で過ごされる方が全員で夜間は、リハビリパンツの方や尿取りパットを併用される方が多い。ポータブルトイレを利用される方も少なく、大半がトイレで排泄されている。家族からは、おむつの使用が少ないとの満足度が高い。職員は、おむつの使用量をチェックし実情を把握するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす時間を作り、座ったままで過ごすことが少ないように工夫しています。朝は、ココアと牛乳を摂取していただいたり、効果がある食材も工夫しながら提供しています。水分量のチェックも行い、変化がないか、また、排便確認を行い、便秘が続かないよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日、午後から入浴があります。ご本人の希望にあわせて、早い時間に入っていたりしています。中々、入浴しながらない方もいますが、毎日声をかけ、「入らない。」と断っても、暫く時間を置いて声をかけることで、入浴できることも多くなっています。	浴槽には、移動用リフトが設置してあり、利用者の身体能力に限定されず希望にて入浴が選択できるよう支援している。利用者の健康上の都合により一端お湯を換えるよう配慮し他利用者が気持ちよく入浴ができるようケアしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時間に合わせ介助しています。また、昼食後、ベッドで休みたいという方もいるので、休息する時間も設けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自己管理が出来ないため、職員が一人ひとりの服薬介助を実施しています。誤薬が無いように、二人で確認するなどマニュアルを作り事故発生防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者も何かできることはさせてほしいと、言われることも多く、洗濯物をたたんだりしています。色塗り、計算ドリルなどを実施する中で、得意なことに変わり、毎日集中して取り組んでいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム行事で、外に出かけてお弁当を食べたりすることも維持しています。気候によりますが、外に出てみたいという声も多いので、散歩に出かけたり、買い物に出かける機会も維持しています。御家族の協力もあり、美容室や、自宅、墓参りも定期的支援していただいています。	初詣、お花見、バラ園などに遠足、紫陽花ドライブ、外食と年間の行事計画に位置付けて実施していることが記録で確認できた。日常的に近隣を散歩し地域の方の畑を見学させてもらったり、家族に協力をいただき墓参りなどに外出する利用者もいる。管理者は、なるべく一人でも多くの方に外出していただけるよう検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>中には、お金を自己管理している方もいます。定期的にヤクルト販売があり、お金を払う場面もあります。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話を掛けたいという希望にあわせて、連絡することもあります。遠方のご家族から、電話がかかってくる、会話する機会も維持しています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有する場所は毎日、消毒を実施し衛生管理に配慮しています。また、排泄物の臭いが無いように、使用後の汚物の処理も工夫しています。洗面所、トイレなど使用するとき、気持ちよく使用できるようにしています。温度管理も注意し快適に過ごせるようにしています。季節を感じていただけるように、飾りつけも工夫しています。</p>	<p>職員は毎朝、掃除や消毒を徹底して住環境を整備しているため嫌な臭いもせず掃除が行き届いている。洗面台は車いす対応で設計されているが、必要な方は椅子を活用している。廊下には連続して手すりを把持し歩行ができるよう工夫してある。福祉用具が利用者の生活に役立ち自立支援の一役を担っている生活空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人になる事が苦手な方もいるので、不安にならないように気の合う利用者同士、ソファでくつろいだりしています。ご本人に確認しながら、過ごした居場所に移動介助をすることもあります。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は、ご本人が使用していたタンス、気に入っているものを持ってきていただいています。ご家族で、飾りを工夫したり、家族の写真を飾ったりしていただいています。	基本的にテレビは共有スペースで楽しんでいただく方針で居室にはない。家族写真、時計など馴染みの物を持ち込み心地よくのんびりと過ごせる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは、手すりを使いつかまりながら、起立が出来ます。介助に差し支える部分もあり、跳ね上げ式の手すりなど設置しています。出来ることは、ご本人がしやすい方法も検討しながら、自立に向け取り組んでいます。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない